

北海道医師会役員就任ご挨拶

常任理事就任のご挨拶

常任理事
札幌市医師会
清田小児科医院院長

三戸 和昭



このたび、中央ブロックより推薦され、第119回定時代議員会で常任理事に選出いただき、新年度より就任することになりました。大変光栄に思いますとともに責任の大きさに身の引き締まる思いであります。

昭和51年3月に札幌医科大学を卒業、直ちに小児科に入局して、青森県立中央病院等で研修しました。17年前、札幌市清田区で小児科診療所を開設しております。平成9年4月から札幌市医師会の理事を3期6年間務めさせていただきました。会務は地域医療福祉部を6年、総務部を4年、地域社会部、医療保険部、財務経理部、会館部、夜間急病センターを2年間担当しました。会長、管掌副会長を始め多くの役員と優秀な札幌職員の助けの下、大過なく職務を終えることができました。

飯塚弘志会長は今年度より3期目を迎え、よりダイナミックにアクティブに会務を執行していくため、執行体制をより機能的、効率的に活用するために、部の新設、統廃合を行っております。私は地域保健部の担当となりましたので、以下にその内容をお知らせいたします。(1)地域保健医療に関すること⑦母子保健に関すること④成人病検診に関すること⑨精神保健に関すること④特定疾患(難病)に関すること④へき地保健医療対策に関すること(2)学校保健に関すること⑦学校医の身分及び学校保健活動に関すること④保育園児・幼稚園児保健に関すること⑨学校医研修に関すること(3)公衆衛生に関すること⑦感染症対策に関すること④予防接種に関すること(4)環境保健に関するこ

と(5)その他必要と認められる事項です。それに伴い、次の他団体役員に委嘱されました。保健福祉部保健予防課の北海道小児慢性特定疾患対策協議会委員と北海道感染症危機管理対策協議会委員、(財)北海道学校保健会理事、(財)北海道青少年育成協会理事と子育て支援ネットワーク会議委員、北海道公衆衛生協会専門委員および日本体育、学校健康センター北海道支部業務運営委員会委員となりましたので、必要な時に声を掛けて下さい。その他、山本部長の医療関連事業部の副部長と宮本部長の総務部の部員も合わせて担当することとなりました。

平成15年1月、学校保健法施行規則の一部が改正され、学校における結核対策が大きく変わりました。これまで行われていた小学校1年中学校1年に対するツベルクリン反応検査およびBCG接種が今年より廃止され、全員に問診を行うことになりました。学校医の先生方にはご協力よろしくお願いたします。

また今年に入ってから、ハノイ・香港等における原因不明の「重症急性呼吸器症候群」(SARS)の集団発生に伴う対応について、緊急情報が頻回に流されています。未だ本邦ではSARSの患者の発生は見られませんが、万が一に備え、対応体制を整備しておく必要があります。SARSの疑い例や可能性例を診察したときは保健所に通報して適正な対応を取る必要があります。北海道の各地域の実情が異なるため、各地の先生方のご意見を伺い、北海道感染症危機管理対策協議会等で検討していきたいと思っております。飯塚会長をはじめ先輩諸先生のご助言をいただき、一生懸命任務に励みたいと思っております。会員皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いたしまして、就任のご挨拶にかえさせていただきます。

常任理事就任のご挨拶

常任理事
小樽市医師会
木下病院院長

北野 明宣



このたび、小樽市医師会会長高橋昭三先生のご推挙により、西 信博先生の後任として常任理事に選出していただきました。

あれよあれよとことが進み、気付いた時には役目を仰せつかったというのが実感であります。大きな不安と責任の重さを感じております。

自分の頭の上のハエも追い払えないのに、他人様のことが十分できるのか？と、自問自答する毎日です。

8年前から、4期、小樽市医師会理事として広報、医業経営部、産業医・スポーツドクター部をおおせつかり仕事をさせていただきました。適任の先生方が多数いらっしゃるなか、浅学非才の私にこのような大役がまわってきたことが、不思議な縁と考えています。このたびは子供たちも医学学校に進学し、手がかからなくなったのだから、少しは仕事をしなさいと神様のご意向だったのかもしれない。

今期、飯塚会長から医業経営部、地域保健部、産業保健部担当を仰せつかりました。とくに医業経営部、地域保健部について小泉内閣の構造改革の影響を強くおむっている部門であり前途多難、これから一層の研鑽が必要だと思っております。

諸先生方のご指導をお受けすることが多いと存じますのでよろしく願いいたします。

常任理事就任のご挨拶

常任理事
札幌医大医師会
臨床検査医学講座教授

渡辺 直樹



このたび、4年間にわたり担当されていた並木昭義教授（麻酔学講座・医学部附属病院長）の後任として、北海道医師会常任理事を拝命致しました。

医育機関選出ということもあり医師会活動の経験が少なく、不安一杯というのが本音です。北海道医師会認定生涯教育講座や産業医講習会の講師、あるいは国民健康保険診療報酬審査委員の活動などを通じお世話になった諸先輩や、知己の事務職員の皆様がおられるので、ご指導いただきながら勉強していきたいと思っています。

昨今は大学病院も、教育や特定機能病院としての研究の充実に加え、経営改善に向けて不断の努力が要求されています。札幌医科大学病院においても、月1回開かれる診療科長会議では推計調定額と保険の査定率（額）、病床稼働率、手術件数、外来患者数、在院日数、紹介率や剖検率など、さまざまな資料が配布されます。それぞれに年度目標の数字設定があり、病院全体と各診療科別の成績が一目瞭然になります。この資料をもとに、改善策に関する討議がかなりの時間を割いて行われています。いまだ、第一線病院の皆様からみれば、その経営感覚は甘いと思いますが、一昔前と比べれば別世界に近い変わり方です。このような時代的背景を考えると、大学に勤務する者にとっても医師会は身近な存在になりつつあります。

今後、医師会と大学病院の良き懸け橋となれるよう努力したいと思っています。皆様方のご指導とご鞭撻をお願いする次第です。

常任理事に就任して

常任理事
北大医師会
リハビリテーション科教授
真野 行生



大学に席をおき、医学研究を主な活動としてきた私にとって、医師会は身近にある大きな存在であったが、その活動の実態を十分に理解していなかった。

しかし、私が専攻するリハビリテーション医学では今後は地域リハビリテーション医療を配慮したシステムの構築は必須となってきた。その意味でのリハビリテーション医学の理想は医師会の活動と共通のものと思われる。

そのリハビリテーション医学界の現状と問題点をこの機会をかりて紹介させていただく。ご存知のように、リハビリテーション医学の理念では、障害をもった人や高齢者が、人間らしい権利を有し、活動や社会参加ができるように、自立とノーマラゼーションを目指している。

これの実現には一つにはリハビリテーション医学での技術の開発や普及がある。リハビリテーション医療での技術の開発と普及では、各種疾患でのリハビリテーション施行のガイドラインがEBMにもとづいてつくられつつある。特に「EBMにもとづく脳卒中のリハビリテーションガイドライン」はリハビリテーション医学会の中心的なメンバーが集まり作成された。これを配慮して患者の状態を考慮に入れた治療が普及されると思われる。脳外傷後などの高次脳機能障害、認知障害についての事業が厚生労働省主導で行われており、新しい分野でのリハビリテーションの展開となっている。慢性期だけではなく急性期医療から対応していくことが求められている。いろいろな疾患に伴う痙縮や筋トーン亢進の制御も経口抗痙縮剤の他に、選択的局所注射療法などがすすみ、治療すべき痙縮と生活上治療すべきでない痙縮の区別がされ、そこに機能再建の考え方も導入

されつつある。その一方では障害者や高齢者が住みなれたcommunityで活動し参加できることを目指したバリアフリーとその人に応じた支援システムの確立が、地域でのリハビリテーション医療の成功には必要である。

以上リハビリテーション医療は、従来のリハビリテーション理念と技術向上だけではなく、社会制度やcommunityでのシステムの構築が必要である。これらは地域での医療担当者や行政の協力がなければできない。

その他日本リハビリテーション医学会で施策と関連し問題になっているのは、1) 回復期病棟が開始されての問題点、2) 介護保険へのリハビリテーション前置の考え方の普及、3) “広告専門医”といわれる制度の導入での問題点、4) 厚生労働省による卒後医師研修制度実施後の医師の地域分布と医師の専門性の選択での変化など多くある。

これらは障害者や高齢者がcommunityで活動し参加するには重要であり、医師会の地域での活動と密接な問題である。新米ですがよろしくお願いたします。

理事に就任して

理事
札幌市医師会
上埜耳鼻咽喉科院長

上埜 光紀



本年3月1日に開催された、札幌市医師会代議員会で、第16代札幌会長に選出され、翌週の北海道医師会代議員会で道医理事に選ばれ、大変光栄に存じます。

中央ブロック選出の理事として、ブロック内の各医師会や会員のご意見、ご要望などを道医あるいは、道医を通して日医に上げることに努めます。

また、札幌市医師会は道医と協同路線で行動することはもちろんですが、お互いに立場を尊重し、緊張感を持った関係でいたいと思います。

私の札幌医会長としての抱負などをご紹介しますと、第1に、市民に信頼される医師会であることです。そのために、医療事故防止や、保険診療のルール遵守の研修会など、啓発活動に取り組みます。

次に、市民が安心して住める街づくりに寄与することです。

平成16年4月、新夜間急病センターの竣工予定を期に、札幌市の救急医療体制のさらなる充実、整備をめざします。また、新センターが夜間の急病に対応するだけでなく、医療や保険情報をデータベース化し、会員や市民の相談、支援機能のため、24時間対応の情報システムを構築する予定です。

さらに、わが国の優れた国民皆保険体制の崩壊につながる株式会社の医療への参入や、安易な混合診療の導入などに対し、医師会の主張が市民の理解を得るよう、市民に分かりやすい広報活動を継続して行います。それによって、世論が動かされ、阻止につながればと思います。

以上のほか、3,200名を超える会員を擁する札幌市医師会の多岐にわたる会務の執行に全力投球する所存ですが、対日医には是々非々で、道医や各ブロックと協調して行動したいと思います。

先般、開催された第108回日医代議員会では、本人3割負担や構造改革特区における株式会社参入を阻止できなかったことに対し、坪井日医会長の退陣を求める医師会と、会長を支持する医師会の意見が真っ向から対立した代議員会となり、緊張する場面もありましたが、会長の辞任には至りませんでした。医療環境の大変厳しい中で、このまま坪井会長で大丈夫なのか不安です。

この問題については、札幌市医師会や中央ブロックの会員の意見を十分聞き、また、道医や各ブロックの先生方と情報交換し、対応したいと思います。

道医会員諸先生のご指導、ご鞭撻賜りますようお願いいたします。

理事就任のご挨拶

理事
北広島医師会
渡辺小児科院長

渡辺 信彦



このたび、中央ブロックの推薦により北海道医師会理事に選出されました。また、日医の予備代議員にも就くことになりました。先日（4月19日）道医で第1回全理事会が開催され、あらためて責任の重さを感じております。

役員として初めての会務と言えるかどうか、去る4月4～6日第26回日本医学会総会（於福岡）に会長はじめ多くの役員の皆さんと共に出席しました。日本の医学および医療を現在動かしているトップの方々の生の討論など、また、わが国の医療についての問題点がいろいろな形で提示されるなど、感ずるところ多々でありました。多会場多岐多彩にて総てに参ずることは到底不可能でしたが、関連した報道などには少しく以前よりは関心が惹起され、今後の活動に資するところがあると思われま。

さて私は、北広島医師会設立時（昭和56年）以来理事や正副会長として救急医療や学校保健などを担当したり、急病センターの設立および運営に携わるなど致してきました。道医にはそれぞれの部会員として参加し、また、代議員として係わって参りましたが、ほんの小さな孔から垣間見させていただいたに過ぎないように思います。今回の理事就任は研鑽の機会を与えていただいたことと知り、道医と会員の橋渡しを旨とし、会員の声を道医の活動に反映させるべく努め、道医執行部と会員の皆様との意識の共有のために微力を尽くし、もっとよき地域医療にそして良き日本の医師会のために幾分かの寄与をでき得ればと存じております。どうぞよろしく願い致します。

理事就任ご挨拶

理事

函館市医師会

やま内科胃腸科医院院長

山 英昭



このたび、道南ブロックを代表して前函館市医師会長金井卓也先生の後を継いで北海道医師会理事に選任されました。重要な役職でその責任の重さに身の引き締まる思いで一杯です。

私は昭和41年北大卒42期で北大第3内科同門です。函館市東山で内科診療所を開業しており、25年が経過しました。昨年4月から前金井会長の後任として函館市医師会会長を務めております。道医との関連では代議員として、また議事運営委員会委員として3期6年間務めさせていただきました。また定款等検討委員会、医師会の在り方検討委員会、医政研究委員会等にも所属させていただきました。この間飯塚会長はじめ多くの役員の方、また各郡市医師会の先生方とお会いする機会がたくさんあり、道医師会活動の一端に触れさせていただきました。本当に役員の方々は多忙で、熱心に諸問題に取り組まれ、会員のために日夜努力されている姿を拝見し、大変感服いたしております。今までは代議員会あるいは各種委員会への出席でしたが、今後は理事として道医師会活動の中核機関である理事会へ出席するということで大変緊張し、その責任の重さを痛感致しております。

先日第1回全理事会が開催され、その席上飯塚会長は挨拶の中で会員の声が届きづらいので、各ブロックの会員の意見を十分反映するようにとの指示がありました。道南ブロックは北部松山医師会、松山医師会、渡島医師会、そして函館市医師会の4医師会で構成され、705名（平成14年10月現在）の会員が所属しております。松山、北部松山医師会とは交通の便があまり良くなく、道南ブロック代表者会議もなかなか思うようにいかず頻回の開催は望めません。しかし道南医学会、地域

産業保健センター等の連絡会議を利用したり、またFAX等も使用しながら広く会員の意見を集約し、理事会に反映していこうと考えております。

昨年4月函館市医師会会長に就任すると同時に史上はじめての診療報酬マイナス改定が実施されました。10月には老人医療費の完全定率負担導入などの患者負担増や外総診の廃止があり、またこの4月から健保本人の3割負担が実施されました。

国民から圧倒的支持と期待のもとに誕生した小泉構造改革内閣は、各論の部で具体的政策を明確にできず、丸投げや妥協に次ぐ妥協ばかりが目につく状況にあります。しかし医療福祉の分野のみは一切妥協せず、まさに「聖域なき構造改革」の一番の生け贄となってしまいました。これらの改定により国民負担も大巾に増え、政府の思惑通り患者さんの受診抑制を招いております。その結果厳しい医業経営を強いられ、地域医療の将来に大きな不安を抱かざるを得ない状況になってきており、国民の健康に重大な影響を及ぼすことが懸念されます。

これらの問題を対処するには各郡市医師会レベルでは到底無理で、当然道医、日医との連携した活動が必要です。道医師会活動は日医と各郡市医師会、会員との連携の要の位置にあると認識しております。

いつでも、どこでも、だれでもが受診できる国民皆保険制度を堅持しつつ、患者さんも医療提供者も安心して治療に専念し、健康を保持できる抜本的医療制度改革が早期に実現されることを望みながら、道医師会活動の役割の一端を果たしていければとお願いいたしております。

飯塚会長をはじめ各役員の方、諸先輩理事の方、道医師会会員の皆さまにはよろしくご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。理事就任のご挨拶といたします。



理事に就任して

理事
小樽市医師会
三ツ山病院院長

三山 雄弘



このたび、北海道医師会理事を命じられました。小樽市医師会の三山と申します。小樽市医師会副会長として、4期8年間務めてまいりました。小樽市医師会という一都市医師会としての、役割、抱える問題、動きに関してはある程度教えられてきたつもりでありますが、北海道医師会では新たに学んでいかなければなりません。後志ブロックの推薦であります。後志全体は高齢化が進んでいる地域であります。小樽市においても、25%に迫る高齢化率であります。独居老人の問題、高齢夫婦の世帯、さらに豪雪地帯の生活環境、これら高齢者に対する諸問題、高齢者対策が後志ブロックの大きな課題の一つであると思えます。北海道医師会の理事会等を通してブロック会員の声を伝えていくのが役割と認識しております。

一方、診療報酬の面で見ると昨年4月診療報酬マイナス改定は、大変大きな衝撃でありました。さらに、自己負担の増額等は医療機関にとって、小泉内閣構造改革に対して怒りを禁じえない現状です。先に日本医師会代議員会において、その怒りが日医執行部に向けられ坪井会長、日医執行部の退陣の声まで出てきました。今、この非常時にこそ会員が一団となって、粘り強く改善に向けて主張すべきと感じました。これから、北海道医師会の理事として、学ぶべき点が多くあり、大変良い場を与えてくれたと感謝し、勉強していききたいと思います。

青柳日医副会長の出身医師会としても、北海道医師会の諸先生のお力を借りて、側面から支援をしていけたら良いと思う次第であります。

理事就任ご挨拶

理事
岩見沢市医師会
竹内内科循環器科院長

竹内 守



このたび、岩見沢市医師会長就任に伴い、空知ブロック各医師会ならびに岩見沢市医師会会員皆さまのご推挙をいただき、北海道医師会理事を務めることになりました。その責任の重さに身の引き締まる思いがしております。私共のブロックは石灰産業により盛え、そして政府のエネルギー政策の転換により産業も人口も衰退の一途をたどっております。さらに高齢化率が全道的にも高い地区であり、医療・介護のみならず様々な多くの問題を抱えております。当ブロック内の意見を集約しながら道医にあげて解決するよう努力したいと思っております。昨年4月の診療報酬の引き下げ改定、投薬日数の制限廃止、10月からの高齢者医療保険の完全定率制実施等により、医療費総額の減少、受診率の低下、1件当たり日数減少など受診抑制の影響は大であります。これに追い討ちをかけるように、本年4月から被保険者本人の定率3割負担が実施され、さらなる受診抑制となっております。このままでは明日への診療に全く夢を持つことができない医療崩壊の危機状態です。平成15年度の道医基本的活動方針にありますように、全会員が手を携え、一丸となって抜本的医療構造改革の推進、実現に向けて取り組んでいかなければならないと思っております。浅学非才、若輩ではございますが、飯塚会長はじめ諸先輩の先生方のご指導を仰ぎながら職責の一端を果たしたいと思っております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

理事就任のご挨拶

理事

旭川市医師会
増田クリニック院長

増田 一雄



平成15年3月8日開催の第119回北海道医師会定時代議員会において、理事に選出されましたことは、身にあまる光栄であると同時に、その職責の重大さに身の引締まる思いで一杯であります。

飯塚会長から“古くて新しい理事”とご紹介をいただきましたが、旭川市医師会より道医代議員歴14年、その間、代議員会副議長を2年間務めさせていただき、また医師会の在り方委員会委員長などの委員会活動にも参加させていただいた結果と思えますが、それらの経験がプラスになるような理事でありたいと願っている次第です。

時まさに、日医をはじめとして医師会厳寒の季節であり、明るい材料のほとんどない時に、道医は会員や国民から何を求められているのか。その点にフォーカスして初心を忘れることなく頑張りたいと思っています。そのためにもみなさまの絶大なご協力、ご指導をいただきながら当面の諸課題に取り組みたいと考えておりますので、よろしくご願ひ申し上げ、理事就任のご挨拶といたします。



理事就任ご挨拶

理事

北見医師会
ばんば医院院長

番場 敏行



このたび、平成15年3月8日の定時代議員会において北見ブロックを代表して道医理事に選任されました。

去る1月27日に急逝された北見医師会長、白川久成先生の後を思いがけず継ぐことになりましたが、当ブロック、道医師会、日本医師会のために、わずかでも力を注ぎたいとの決意であります。道医理事会には、北見ブロックより、大田原先生、白川先生の両大先輩が活躍されておりましたが、両先輩のご努力には深甚なる敬意を表するとともに、これからの自分の責任の重さに、身を引きしめているところであります。道医には、代議員会、労災自賠責委員会、医師国保保険料等検討委員会等に出席させていただき、勉強する機会がありましたが、今後は飯塚会長の元で、北海道医師会の活動に役立ちますよう学ばさせていただきますのでよろしくご願ひいたします。当ブロックは、北見、網走、美幌、紋別、遠軽の5医師会で構成され2つの2次医療圏を形成しております。当面する問題として、今後2年間の結核病床の無床状態、医師を含め、PT、OT、看護職員の確保が困難なこと、これに伴う病院の標欠問題など、地域医療の存続に係る重大な問題が山積しております。去る3月30日の第108回日本医師会代議員会に出席し、坪井会長をはじめ役員の方の全力をあげての日本医療改革に取り組む姿勢を目の当たりにして、認識を新たにいたしました。これからの医療は、患者さんの側に立った視点での地域医療でなければならないことを痛感しております。任期間中は諸先輩のご指導、ご鞭撻のほど、よろしくご願ひいたしまして、理事就任のご挨拶といたします。

監事就任のご挨拶

監事

小樽市医師会

北海道社会事業協会小樽病院名誉院長

高木 正光



昨年12月、小樽市医師会会長高橋昭三先生より突然のお電話で「来期4月より道医監事井上 勇先生の後任を引き受けてくれないか」とのお話がありました。小樽協会病院長時代（昭和60年～平成9年）に、平成3年より平成9年3月まで小樽市医師会理事（学術担当）を3期務めさせていただいた頃より敬愛していた両先生のご依頼でしたので「私に務まることなら」とあまり深刻に考えずお返事致しました。

これには、私の恩師に当たる故青木高志先生（平成14年1月ご逝去）がお元気で小樽協会病院長、北海道社会事業協会理事長時代、昭和52～平成1年まで道医の常任理事および副会長として北海道医師会でご活躍になり、ご存知の方も多いいことと思いますが、北海道医報（昭和53年2月）に「勤務医と医師会」と題して解説をお書きになりました。その中で勤務医と医師会は車の両輪に当たり、病診連携はもとより、小異にこだわらず、「対話と協調と連帯」による組織強化のため道医師会に勤務医部会の設立を提唱されたり、北海道医師会の歴史に大きな足跡を残して、道医師会との関わりを大切にするようにご指導、薫陶を受けたせいも分かりません。

3月の定時代議員会で監事として選任され、4月8日の第1回常任理事会にて監事当選証書を受けましたが、飯塚弘志会長より「厳正なる監査をお願いします」との言葉をいただきました。

これまで2～3回理事会に出席しましたが、常任理事の先生方が開業に病院勤務に大変多忙の中、よく勉強し熱心に真剣に討論し活躍していることに一驚し感嘆しました。これは出席しているだけで、今までに経験したことのない勉強になると感動もしました。

早速、事務局よりいただいた北海道医師会規程集を繙いてみました。監事は「会務および財産状況を監査する」とあります。

これまで、道医報での四季折々の「会員のひろば」の寄稿文、西 信博先生の軽妙なタッチの「内視鏡」等は楽しく読ませていただいておりますが、今回あらためて最新の北海道医師会史、最近の北海道医報の「指標」を中心に読み返しております。監事の仕事は慣れないことで見当がつきませんが、幸いなことに北大同期（32期）の沢田 孚監事、豊田馨常任理事、小樽出身の佐野文男副会長、浜上裕一常任理事、北野明宣常任理事等同期後輩の諸先生が多数いられ、意を強くしております。

日本の医療制度は大きな転換期にあります。患者負担の増額、高齢者医療制度の変革、さらに医療特区における株式会社方式の導入、混合診療の問題等、これまでの日本の医療制度を崩壊しかねない難題が山積し、これまでにない医師会員の結束と英知の結集が求められています。困難な時に道医の役員的一端に就任しましたが、飯塚弘志会長のもと北海道医師会の活動に微力ですが尽力致したいと存じます。よろしくご指導下さい。

代議員会議長に就任して

議長

帯広市医師会

秋川内科小児科医院院長

秋川 恵二



昨今の厳しい医療情勢では、行政に対するいらだちと、不信が募る一方で、仲々明るい展望がみられませんが、会員の皆さんには、それぞれの分野でご健闘されていることと存じます。

このたび、多くの方々のご推挙をいただき、併せて定時代議員会にてご承認を受け、議長職に就任いたしました。もとより非力、浅学の身の私ごとときには、身に余る光栄であると共に、その重責に身の縮まる思いであります。時間の経過と共に、不安感が募る日々であります。抱負を述べるほど

勉強しておりませんが、歴代の名議長の職歴を汚さないよう努力いたしたいと存じます。今後は執行部の先生方のご指導を受けながら、同時に各ブロック代表の先生方の、アドバイス、多くの意見を拝聴しながら円満な会の運営に努める所存であります。また事務局以下、事務局全員の方々には、大変お世話になることが多いと思いますが、応分のご助力を、この場を借りてお願い申し上げます。

幸いに副議長に中西欽也先生が就任されました。先生は俊才であり、かつ種々の業務に精通された方であり、私にとって何よりも心強く、頼りになる方であります。これから心を合わせて二人三脚で会の運営を進めたいと存じます。前任者の官尾議長、河西副議長の実績を踏襲しながらやらせていただきます。

いずれにしろ会員の皆さんの、ご協力、ご支援がなければ、スムーズな運営は困難となります。

未熟者への皆様の暖かいご助力を重ねてお願い申し上げます、拙い文ですが就任のご挨拶といたします。

代議員会副議長に就任して

副議長

旭川市医師会

中西外科泌尿器科医院院長

中西 欽也



このたび、第119回定時代議員会において、思いもよらず、代議委員会副議長に選出され、秋川議長のもと2年間を務めさせていただくことになりました。副議長という重責に身の引き締まる思いでいっぱいです。

簡単に自己紹介をします。私は、昭和30年札幌北高を卒業、昭和36年昭和医科大学を卒業し、1年間市立札幌病院でインターンを終了後、昭和医科大学泌尿器科学に入局、その後、昭和47年に帰道し、札幌第一病院、中富良野町立病院院長を経て、昭和55年に旭川市で診療所を開業してから早23年になります。開業当時は診療に専念し、医師

会活動には、積極的ではありませんでした。

その後、平成3年に旭川市医師会の理事になり医師会活動に関わることになり、6期12年がたちました。その間、医政・経理・庶務・医療保険・財務といろいろな部を担当し、旭川市医師会の会計基準を作ったり、代議員制導入のための定款変更などに携わり、大変勉強させてもらいました。

平成7年からは北海道医師会代議員となり、道医の定款等検討委員会委員・社保対処費検討委員会委員等を担当しました。また、代議員会では、予算委員、決算委員など務めさせていただき、これらの委員会で様々な人と交流を持つことができたことは私の医師会活動にとって大切な財産と成りました。

昨今の厳しい医療環境の中での医師会活動の難しさは、先日の代議員会での決議文の中の小泉内閣の退陣要求に見られるように、自民党を支持政党としながら現内閣を否定するという一見矛盾さえ感じられることに現れていると思います。

代議員会の役割は、郡市医師会の会員の意見をいかに円滑に道医や日医へ伝達することであろうと思います。今の代議員会での代表質問・個人質問というような質疑応答だけではなく、郡市医師会や会員の抱えている卑近な問題を発言できる一般発言（応答はなし）のような機会があれば、より多くの会員の声を反映できるのではないかと思います。そのような意味で代議員会のあり方を考える必要があるような気がします。

代議員会の副議長をお引き受けしたからには、秋川議長をお助けして、定款・定款施行規則・代議員会議事規則に沿って代議員会の運営が円滑にいくよう、また、多くの会員の意見が反映されるよう精一杯努力する所存です。

今後とも、道医会員の皆様のご指導、ご鞭撻を賜り、2年間の任務をまっとうすることをお誓いし、副議長就任のご挨拶といたします。